

# エコ・リサ学習会報告

## 地域の環境団体から学ぶ!! 第2弾 ～市民が運営するリサイクルプラザ～

狭山市

＝エコ・リサ学習会を、埼玉のいろいろな地域で開催しようと、平成26年8月21日（木）狭山市奥富の環境センター内にある『リサイクルプラザ』におじゃましました。

参加者16名は工場棟とリサイクルプラザを見学した後に、NPO法人「さやま環境市民ネットワーク」の理事3氏に講師となっただき、学習会を開催しました。＝



【家具を修理して市民へ】

### NPO 法人さやま環境市民ネットワーク 副代表理事:毛塚宏氏

「さやま環境市民ネットワーク」(以下・さや環)は、平成15年12月に設立。平成19年8月にNPO法人化している。

さや環がその活動内容として掲げているのは

- 環境に係わる情報提供・情報交流
- 環境に係わる教育・普及啓発
- 環境活動に係わる市民・市民団体・事業者・行政の連携及び協働の推進
- 環境活動に関わる市民・市民団体・事業者への相談助言及び支援
- 環境に関わる調査研究・提言となっている。



①「情報提供・情報交流事業」について  
広報誌「さやか」の発行、環境まちづくりについて語り合う「環境サロン」などの活動を行っている。今年になって初めて40団体に呼びかけて内27団体が参加する交流会を開催した。今後は毎年開催を予定している。

②「教育普及啓発」について  
自治会館の屋根を利用したソーラー発電所を2箇所建設した。  
現在3号機の建設を計画中だが、近隣の合意形成が得られずにいる。  
今後は農地を利用した農業とのコラボレーションも検討している。

また公民館などにおいて「環境講座」を開催している。

③「連携及び協働の推進事業」  
今回見学させていただいたリサイクルプラザの運営を行っている(後述)他にも  
市内で開催される様々な環境保全活動への支援・参加協力、環境学習講座の企画運営、「緑のトラスト狭山」管理運営などを行っている。

今回の学習会におけるキーワードと言える「協働」に関して、毛塚氏はそのメリットを、さや環の使命である「環境まちづくり」推進の大きな原動力になる、市民の認知度の拡大につながる、また脆弱な事業基盤をPRや資金面で補完してくれる、と説明されていた。

しかしながらやはり「お金が無い」という課題も一方では語っておられた。

「NPOだから安く済む、と思われがちだが決してそうではない。NPOであっても健全な運営が原動力になってゆく」という毛塚氏の言葉は非常に印象的だった。

## NPO 法人さやま環境市民ネットワーク 理事 リサイクルプラザ担当：児玉靖氏

リサイクルプラザの誕生は平成21年1月。さや環はそれ以前の設立準備段階である平成19年から市資源循環推進課と協議を重ね、その設立に関わってきた。

しかしながら運営に関しては、市民啓発業務委託についての公募があり競争入札が行われ、他社との競合の結果としてさや環が受託した。

設立当初の平成21年には業務内容は

- ①ごみ減量・リサイクルに関する館内案内
- ②ごみ減量・リサイクルに関する学習機会の提供(リサイクル体験教室の開催)
- ③ごみ減量・リサイクルに関する情報収集及び提供(リサイクルプラザ通信の発行)

のみとなっていたが、平成22年度からは新たに

- ④再生品・不用品の展示及び頒布に関する業務
- ⑤不用品登録制度の斡旋に関する業務が追加されて受託業務範囲が拡大した。

リサイクルプラザの運営に関しては、「業務委託契約書」、「業務委託仕様書」、市の規則類を当然順守しなければならないが、「それらを守るだけでもかなり大変なこと」と言う。

しかしさや環としてはそれらを順守するだけでなく、リサイクルプラザをより充実した施設に、より市民に親しまれる施設にする為の、市への提言を「運営の基本」に据えている。

その提言の内容が事例として多数紹介された。

その中でも多いのは、「着物フェア実施方法の改善」や「再生家具の申し込み方法改善」等



現場で直面した課題から生まれたものだった。

現場での課題の例として挙げられていた一つに、不用品登録制度に関するエピソードがあった。これは市民が不用品として「登録カード」に書いた内容をもとにそれを必要とする市民とをつなぐ業務。運営側はその物を見ることなく、カードに書かれた内容だけで斡旋業務を行い、基本的には両者間でのやり取りで成立するはずの制度であるが、やはりトラブルが多く、実際にはリサイクルプラザ運営を行っているさや環が間に入ってケアをするケースが多い、とのこと。

ちよつと聞いただけでも、現場で対応する方々のご苦労が大変なものであろうことが想像される。



## NPO さやま環境市民ネットワーク リサイクルプラザ体験教室 企画担当:遠藤日出子氏



リサイクルプラザ体験教室は「無いないづくしからのスタート」と遠藤さん。市にとってもNPOへの業務委託は初の試みであり、

お互いに分からない中で始まった。

市から「計画書を作ってくれ」と言われて遠藤さんがお作りになった計画書を資料として見せていただいた。「石けんづくり」、「さき織教室」、「紙すき教室」など。

2009年2月に立てた計画で61回開催、去年は74回開催したそう。

最初は道具も何も無い、時には材料まで自前で持ち込んで行った。

体験談の数々を語って下さりましたが、ご苦労が伺えるエピソードが多い中でも、「楽しい」という言葉も。

印象的だったのは「何も無かったから良かったのかも知れない。『あれをやれこれをやれ』と言われていたら面白くなかったかも知れない」という遠藤さんの言葉。先駆者の苦しみと喜びが伝わってきた。

「協働」という言葉は良く使われて、理想的に聞こえるかも知れないが、言うのは簡単だけれど、、、、という遠藤さん。

「私たちが思うことと、行政が思うことはずいぶん違う」とも。



### まとめ

遠藤さんの語られるとおり、今回のキーワードと言える行政と市民の「協働」。

非常に聞こえもよく、まさに理想的なイメージを抱かせる。

しかしながら、その理想を追い求めることは決して簡単ではないんだ、というメッセージが、講師三名の言葉には込められていたように感じる。

もう一つ、共通して言われていた課題に若い世代の参加、があった。

遠藤さんは「5年・10年先が心配」と語り、毛塚さんは「若い世代及び女性の参加」を資料内でも課題として挙げている。

現在は機関誌とホームページで情報を発信しているが、これは「最低限である」と認められており、フェイスブック等を用いた多様な情報発信方法が課題と捉えている。

## 質疑応答全文

講座の内容は大変充実していて、参加人数が少なかったのがもったいなかったほど。質疑も活発にされました。エコ・リサの今後の活動にも参考になりました。

Q：リサイクルプラザの業務は、一種の雇用を生んでいることになりますか？時給は？

A：一日4名、250日です。時給は、最低賃金はクリアしています。

講座の講師への報酬は、7000円（一日2時間×2回）・5000円（一日2時間×1回）、アシスタントは5000円（一日2時間×2回）・3000円（一日2時間×1回）です。

Q：リサイクルプラザを行政が直営したら？ NPOが運営すると中身が濃い？

A：リサイクルプラザの市民啓発業務委託について公募があり、他社との競合の結果、金額の安さで「さやま環境市民ネットワーク」が受託しました(平成21年1月5日～3月31日)。以降、業務委託費が安い  
ためか、競合相手は現れません。

Q：リサイクルプラザの売り上げは市へ入るのですか？

A：はい。

Q：備品の購入はどうされていますか？

A：販売に関する備品は、市で購入してくれます。

Q：取り扱い数の推移は？

A：年27,000人で、かわっていません。

持ち込みと、購入希望のバランスがとれている。1日7～8000円の売り上げです。

Q：協働だが、市からの注文はありますか？

A：5つの協働事業を行っている。行政とともにつくったNPOで、運営費ではなく事業に対して費用が出る。特に注文はない。（書式には厳しいですが・・・。）

Q：利用者のニーズの調査はしていますか？

A：アンケートはとっていないが、感想文をとっているが未整理で、今後整理していきたい。講座は参加者10人に講師2人なので、意見は聞こえてくる。

Q：とりあえずの年間計画の中身は変わりましたか？

A：一年目がベースになっている。最初に大変人気のあった『マイバックづくり』は、今は落ち着いている。人気は変わっていく。

Q：プラザ利用は、狭山市民・在勤・在学者のみだが、変えないのですか？

A：行政との協働で、2009年2月の開所時に決定しているので、すぐに変えるのは難しい。

しかし、きものフェアの値段が変わった例もあるので、必要に応じて変えていけたらと思う。

Q：受託費が変わったことはありますか？

A：一度上がったが、講座数が50回から70回になった。

Q：クリンセンターに出されたものでリサイクルプラザの扱いになるものはありますか？

A：たまに、職員が程度の良いものを持ってきてくれます。家具は、半分は粗大ゴミに出されたものを再生して展示しています。

Q：購入された大きなものを運ぶための斡旋はしないのですか？たとえば、軽トラックを貸し出すとか、運送業者を紹介するとか。

A：斡旋はしていません。購入した人が手配しています。

Q：指定管理者ですか？

A：違います。

※ 子どもの体験講座には、毎回100人以上が参加。スタッフ15人の全身体制で対応。広報は、まめに広くと工夫している。プラザへの交通が不便なので、出前講座も行っている。

※ 悩みは、常習者の万引き対策と、毎日10点(上限)購入して転売している人が10人ほどいること。対応に苦慮している。